



インターナショナル新書

『ランボーは なぜ詩を棄てたのか』

奥本大三郎 (フランス文学者)

定価: 990 円 (10%税込み)

体裁: 新書判 / 272 ページ

発行: 集英社インターナショナル (発売: 集英社)

ISBN978-4-7976-8072-0



6月7日(月)発売!

『苛立ちの轍を
わだち

虫眼鏡が行く のぞいてみませんか?

聞こえるぞ 19世紀のロックンロール』

甲本ヒロト氏 (ザ・クロマニヨンズ)

19世紀フランスが産んだ天才詩人の苦悩とは?

日本において、アルチュール・ランボーの詩は小林秀雄や中原中也などの訳で親しまれてきました。19世紀の普仏戦争に揺れるフランスの田舎街で、息の詰まる思いをしていたランボー。反逆の精神に満ちた数々の言葉に、夢中になった方も多いと思います。

本書ではランボーの波瀾万丈の生涯を追いながら、**難解とされる散文詩「イリュミナシオン」の読解**に挑みます。度重なる家出の後に、とうとうパリに出たランボーはヴェルレーヌらと交流を持ったものの、傲慢、粗暴さゆえに詩壇から追放され、**20歳で突如、詩を放棄してしまいます**。この詩の放棄の真の理由こそが、

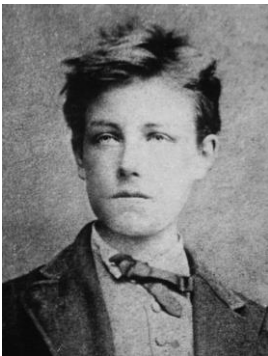
「イリュミナシオン」に秘められていると、著者は語ります。若き天才詩人が憧れ、求めて、しかし得られなかったものとは何であるのか? 是非、本書でお確かめください。



【奥本大三郎】 フランス文学者。NPO 日本アンリ・ファーブル会
理事長。1944 年、大阪府生まれ。東京大学文学部仏文学科卒業。同
大学大学院修士課程修了。『虫の宇宙誌』（集英社文庫）で読売文学賞、
『楽しき熱帯』（講談社学術文庫）でサントリー学芸賞を受賞。訳書『完
訳 フェーブル昆虫記』（全 10 巻 20 冊、集英社）を完成させた業績に
より菊池寛賞を受賞。他にも訳書・著書多数。

ランボーの研究は著者 50 年越しのライフワーク。

詩の新訳とともに、ランボーの足跡を辿ります。



幸福の魔法をおれは究めてきた
誰にもこれはごまかせぬ。（筆者訳「錯乱Ⅱ 言葉の錬金術」より）

「イリュミナシオン」に秘められていたのは、
ボードレールに憧れたランボーの麻薬体験だった!?
しかしどうしてもたどり着けなかったある境地とは？

17 歳のアルチュール・ランボー

<目次>

- 第一部 詩人ランボーの足跡
 - 第一章 日本におけるランボー
 - 第二章 年金生活者を目指す神童
 - 第三章 出奔
 - 第四章 見者の修行へ
 - 第五章 「忘我の船」で大海に出る
 - 第六章 パリのランボー、ヴェルレーヌからの招待状
- 第二部 「地獄の一季節」「イリュミナシオン」読解
 - 第一章 「言葉の錬金術」の謎解き
 - 第二章 ”暗殺者”ランボー

※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。



度重なるランボーの家出
に振り回されながらも、
その才能を大切に育てて
あげたいと願う、
名教師イザンバール

【本書のお問い合わせ先】

集英社インターナショナル

電話 03-5211-2630 公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp/>